

令和3年12月12日
防災アドバイザー
広瀬 一行

『スロースリップを注視!!!』

東西およそ700kmの南海トラフで起こる超巨大地震M9.1の想定で東京から、九州にかけて震度7の激震、名古屋市域で最大5Mの津波が推測されます。

NHKスペシャル最大M9の脅威/地震の”前ブレ”をつかめが今年放映されました。

その中で、東海・東南海・南海地震の三連動型が発生する前ブレを海洋研究開発機構の地震学の権威、堀高峰(たかね)センター長がこの10年で飛躍的に進歩したスーパーコンピューターや人口知能AIの地震解析でビッグデータ解析を実施しました。

次に超巨大地震が起こりやすい場所も見えてきました。

東日本大震災の二日前11時46分に宮城県沖でM7.3の巨大地震が起こり、周辺でスロースリップが起きました。

それが引き金となって超巨大地震の東日本大震災の悲劇が・・・百年～百五十年周期で超巨大地震が南海トラフで繰り返し起きています。1854年安政東海地震・南海地震から百六十七年経過、明日超巨大地震が起きても不思議ではない状況です。

前ブレのスロースリップがいつ、どこで起きたら危ないのか、研究の結果二つパターンが解析されました。

パターン1は、日向灘(ひゅうがなだ)でM7.5クラスが発生。

パターン2:紀伊半島沖M6.1クラスが発生。共に数年後、巨大地震が発生している。

従って、今後ニュース等で日向灘でM7.5クラスが発生又は、紀伊半島沖M6.1クラスが発生に注視!!!して下さい。

早くて翌日にも、遅くても数年後に必ず超巨大地震がやって来ます。ただ残念ながら直下型(濃尾地震等)地震の前ぶれは未解析です。